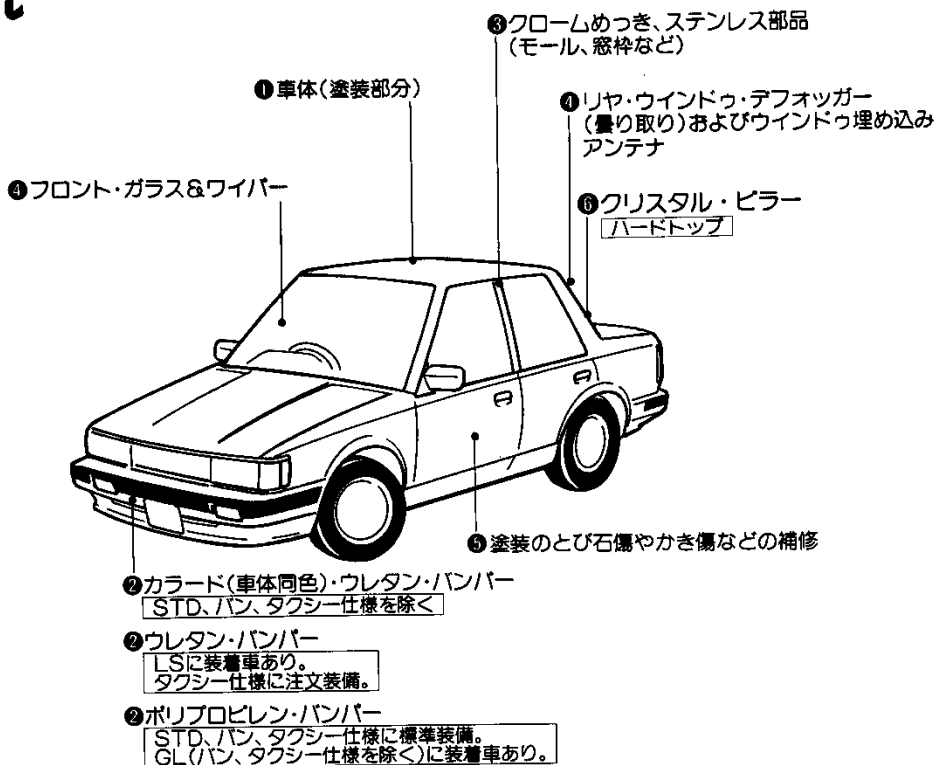


車の手入れ.....84
 経済運転のコツ.....87
 寒冷地での取り扱い.....88
 タイヤ・チェーン.....91

車の手入れ

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤ・チェーン



車を美しく保つには

車をいつまでも美しく保つためには、日頃の手入れが必要です。

1. 次のような場合は必ず洗車してください。
 - 海岸地帯を走行したとき。
 - 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき。
 - コールタール、ばい煙、油煙、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき。
 - ほこり、泥などで著しくよごれたとき。
2. 次のような場所に長時間駐車しますと、塗装の劣化や、車体、部品の腐食などを早める原因となります。十分注意してください。
 - 海岸
 - ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉などの降下の多い場所。
 - 化学物質を排出する工場周辺。
 - 樹液、鳥のふん、虫の死がいなどの付着の多い場所。

① 車体(塗装部分)の手入れ

車体のほこりはやわらかい布か毛ばたきで取ってください。

▶ 洗車方法

1. 車体の下回り、足回りを洗います。
2. 次に、車体に十分水をかけながら、スポンジかセーム皮(鹿のなめし皮)でよごれを洗い落とします。
3. よごれのひどいときは、トヨタ純正カーシャンプーを使用します。



ちょっと一言

1. コンパウンド(みがき粉)入りワックスや、液状ワックスは使用しないでください。
2. エンジン・オイル、グリースなどの油分が付着すると、変色、しみなどの原因となります。十分注意してください。



注意!

1. エンジン・ルーム内の電気製品に水をかけないように注意してください。エンジン始動不良の原因となります。
2. 下回りを洗うときは、ゴム手袋などを着用してください。手にケガをするおそれがあります。
3. カーシャンプーを使用したあとは水で十分洗い流してください。
4. 自動洗車機を使用すると、ときによりブラシの傷がつき塗装の光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。とくに、濃彩色車やメタリック車はスリ傷がめだちやすくなります。

4. 塗装面にはん点が残らないように十分水をふき取ります。

▶ワックスについて

ワックスの中にコンパウンド(みがき粉)がはいっていないものをご使用ください。

1. 1か月に1度、または水のはじきが悪くなったときに行ってください。
2. 洗車後、車体の温度が体温以下のときに行ってください。しみの原因になります。
3. ワックスは次のトヨタ純正品をお使いください。



オートワックス・
ニューコート



オートワックス・
シルバー



オートワックス・
ゴールド



オートワックス・
メタリック
(メタリック塗装用)

4. 前記のワックスを使用しても、よごれがひどく落ちにくいときは、次のトヨタ純正品をお使いください。

オートワックス・
ホワイト&クリーン



オートワックス・
ホワイト・コート



オートワックス・
スピーディ



注意!

これらのワックスの中には微粒なコンパウンド(みがき粉)がはいっていますので、よごれ落ちはよくなりますが、塗装面を削り取るため塗装面の光沢が失われる原因になります。また使用した布に色が付着することがあり、とくに濃彩色車ではめだちやすくなります。できる限り3.のワックスを使用してください。

②バンパーの手入れ

▶カラード(車体同色)・ウレタン・バンパー

1. 車体と同じく、洗車したあとトヨタ純正ワックスでワックスがけをします。
2. たわしなどの硬い物を使用して洗うと傷がつきますので、セーム皮、スポンジなどをご使用ください。



ちよつと一言

エンジン・オイル、グリースなどの油分が付着すると、変色、しみなどの原因となります。十分注意してください。

▶ウレタン・バンパー

1. 車体と同じく洗車したあと次の専用ワックスでワックスがけをします。トヨタ純正バンパーワックス・ブラック(ウレタン・バンパー用)
2. たわしなどの硬い物を使用して洗うと傷がつきますので、セーム皮、スポンジなどをご使用ください。
3. 塗装面用ワックスや泥が付着すると、ウレタンの目地にはいり白くなることがあります。この場合は、水で洗い落とした後、専用の黒色ワックスを塗布してください。



ちよつと一言

コンパウンド(みがき粉)入りワックスや、液状ワックスは使用しないでください。

▶ポリプロピレン・バンパー

1. 車体と同じく洗車します。
2. たわしなどの硬い物を使用して洗うと傷がつきますので、セーム皮、スポンジなどをご使用ください。
3. ワックスがけする場合は、トヨタ純正バンパーワックス・クリアーを使用してください。塗装用ワックスが付着すると、目地にはいり白くなることがあります。



ちよつと一言

エンジン・オイル、グリースなどの油分が付着すると、変色、しみなどの原因となります。十分注意してください。

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤ・チェーン

③ クロームめっき、ステンレス部品(モール、窓枠など)の手入れ

1. 車体と同じく、洗車したあとワックスかけをします。
2. しみなどは、トヨタ純正オートワックス・ホワイト&クリーンを使用して除去してください。

④ ウィンドウ・ガラスについて

ワイパーのふきが悪くなった場合は、トヨタ純正ガラス・クリーナーで清掃してください。なお、ワイパー・ゴムが古くなっている場合も同様にふきが悪くなりますので最寄りのトヨタ販売店で交換してください。



リヤ・ウィンドウ・ガラス(室内側)の清掃は、断線を防止するため、湿った布で熱線にそって、軽くふいてください。
 ちょっと一言 ガラス・クリーナーなどを使用すると、リヤ・ウィンドウ・デフォグガー(曇り取り)が作動しなくなるおそれがあります。

⑤ 塗装のとび石傷やかき傷などの補修

これらの傷は腐食の原因となります。見つけたら早めにトヨタ純正タッチ・アップ・ペイントで補修してください。



⑥ クリスタル・ピラーの手入れ

1. セーム皮、スポンジなどで十分水をかけながら洗ってください。
2. 洗車後は車体と同じワックスでワックスかけをしてください。

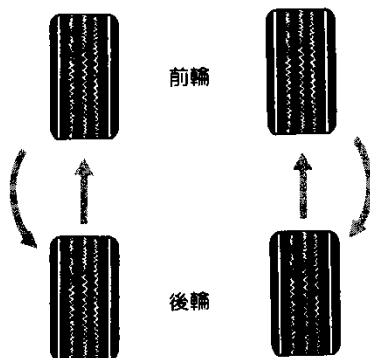


ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤またはコンパウンド入りワックスや液状ワックスは使用しないでください。

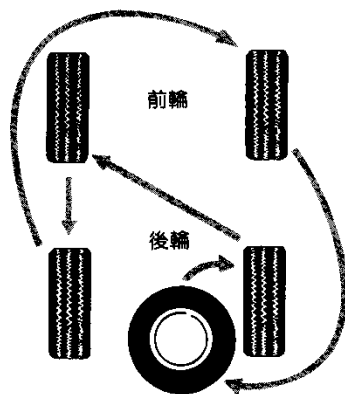
■ タイヤ位置交換

タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命を伸ばすために10,000kmごとに下図にしたがって位置交換を行うことをおすすめします。

ラジアル・タイヤ



バイアス・タイヤ

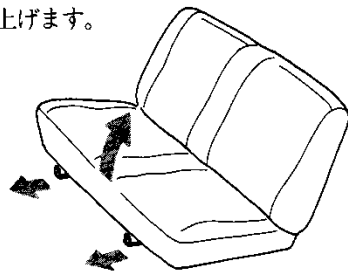


■ リヤ・シートの取りはずし方

セダン、ハードトップ

シート・カバーの交換などでリヤ・シートを取りはずすときは、次の要領で行ってください。

1. シート足元にあるレバー(2カ所)を引き、シート前部を持ち上げます。

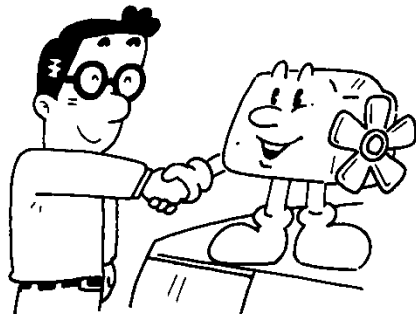


2. シート全体を手前に引きフックをはずします。

レバーを引かずにシートを持ち上げると、シート固定具を損傷するおそれがあります。
 注意/

経済運転のコツ

エンジンをいたわる気持ちで、
長持ちの秘訣



1. (新車時はとくに) ひかえめな運転をしてください。
2. エンジンをオーバーラン(限界回転数超過)させないために、各チェンジ・レバーの位置での速度が下表の数値をこえないようにしてください。



高速走行時、ギヤを一段下に落とすときはオーバーランに注意してください。

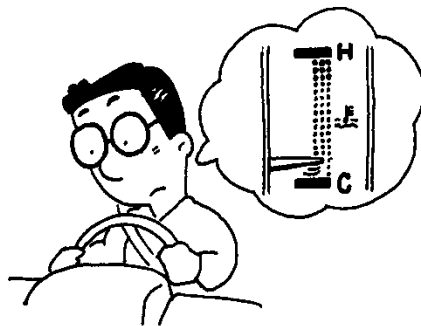
ちょっと一言

(単位:km/h)

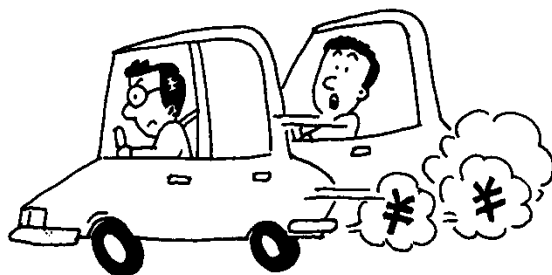
排気量	エンジン型式	トランスミッション型式	1速	2速	3速	4速
1800	1S-U	5速マニュアル(ギヤ式)・トランスミッション	45	75	115	160
		オーバードライブ付き4速フル・オートマチック・トランスミッション	55	100	145	
	2Y-J	5速マニュアル(ギヤ式)・トランスミッション	40	70	105	145
		3速フル・オートマチック・トランスミッション	50	90		
2000	1G-EU	5速マニュアル(ギヤ式)・トランスミッション	45	80	120	155
		2ウェイ・オーバードライブ付き4速フル・オートマチック・トランスミッション	55	100	145	
2400 (ディーゼル)	2L	5速マニュアル(ギヤ式)・トランスミッション	30	50	80	115
		5速マニュアル(ギヤ式)・トランスミッション	30	55	85	120
	2L-T	オーバードライブ付き4速フル・オートマチック・トランスミッション	45	80	110	
1800 (LPG)	2Y-PU	5速マニュアル(ギヤ式)・トランスミッション	45	65	100	140
		3速フル・オートマチック・トランスミッション	55	95		

暖機運転は、長すぎると不経済

水温計の指針が動き出すまでになればOKです。



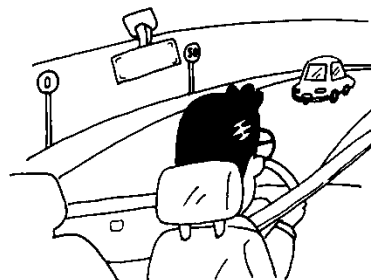
不必要な高速運転は燃料のムダ使い



100km/h走行時の燃費は、40km/h走行時の約1.5~1.7倍よけいに多くかかります。

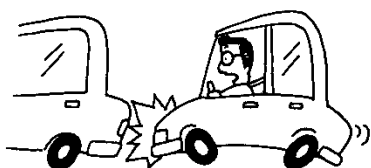
高速道路は80km/h程度で走るのが経済走行といえます。

車間距離はゆつたりとって、安全プラス経済運転



車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤ・チェーン

急発進、急ブレーキは危険をともない 不経済



車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤ・チェーン

クラッチの適正で確実な操作は、 車を長持ちさせる秘訣

1. ギヤをいれるときは、クラッチ・ペダルを十分踏み込んでから行ってください。
中途半端な踏み方ですと、クラッチはもちろんトランスミッションのギヤなどもいためることとなります。
2. 走行中は、クラッチ・ペダルに足をのせないようにしてください。
3. 発進時は、ロー(1速)・ギヤを使用してください。
セカンド(2速)・ギヤ発進など半クラッチの多用はクラッチの摩耗を早めます。

寒冷地での取り扱い

この項目での寒冷地とは、北海道全域および東北、北陸の積雪地帯および、その他の地域を含めた山岳地、スキー場などの局地的な厳寒地区、多雪地区を対象としておりますが、その他の地域においても、冬期の取り扱いの参考としてください。

安全なウインタードライブをするために

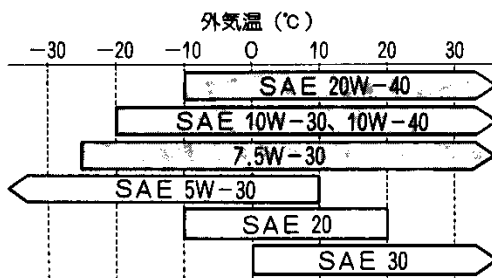
1. タイヤ・チェーンの準備
2. スノー・タイヤの装着
スノー・タイヤに取り替えるときは、4輪とも交換します。
3. 冷却水の濃度を点検してください。(寒冷時は、キャッスル・ロング・ライフ・クーラントの濃度を50%にします。)

4. ウォッシャー液の濃度を50%以上にあげます。

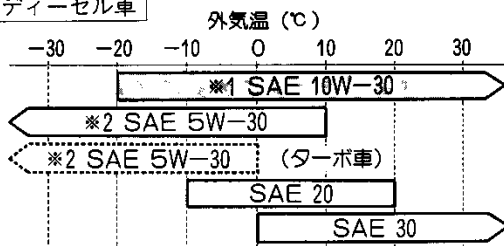
使用地域・季節	希釈割合	凍結温度
通常	原液1に水2	-10℃
寒冷地の冬期	原液1に水1	-20℃
極寒冷地の冬期	原液のまま	-50℃以下

5. エンジン・オイルの粘度は、外気温によって下表を参考にして使いわけてください。

ガソリン車、LPG車



ディーゼル車



- *1 10W-30は年間を通して使用できます。
- *2 極寒時には5W-30をおすすめします。
ただし、外気温が10℃(ターボ車は0℃)以上になる時期には10W-30と交換してください。



SAE20、30は使用できる温度範囲が狭いので注意してください。
ガソリン・エンジンには、7.5W-30、10W-30、10W-40、20W-40の使用をおすすめします。
ディーゼル・エンジンには、10W-30の使用をおすすめします。

6. 寒冷地では冬がくる前に燃料タンクの水分を排出することをおすすめします。
また、水分除去剤にはトヨタ純正キヤスミック・エース・ウォーターカット(ディーゼル車はキヤスミック・エース・ウォーターカットD)を使用してください。
7. 凍結防止用ワイパー・ゴムの装着
必ずトヨタ純正品を使用してください。

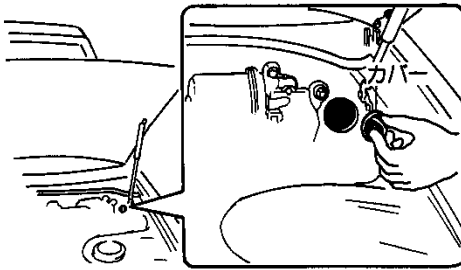
8.ワイパーの切り替え

STD、バン、タクシー仕様を除く

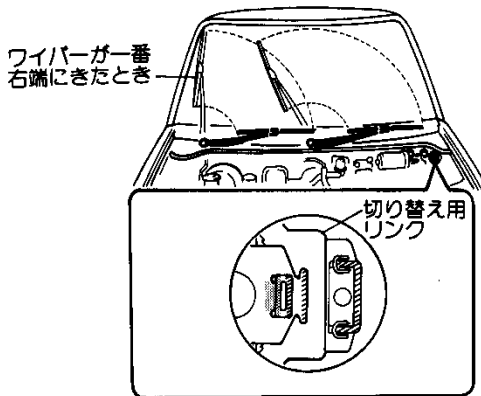
フル・コンシールド式ワイパーは、フロント・ガラスに多量の雪が積もった場合ワイパーが上がらなくなりワイパー・モーターを損傷するおそれがありますので、次の〈切り替え方法〉を参照してフル・コンシールド式からセミ・コンシールド式にご使用ください。

〈切り替え方法〉

1. エンジン・ルーム左側のワイパー・モーター横にあるカバーを取りはずします。



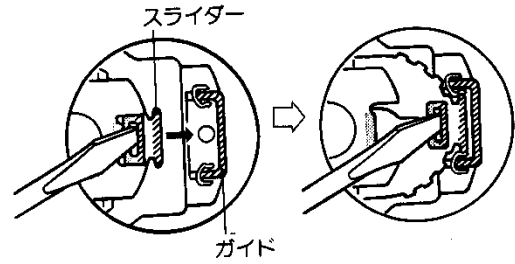
2. エンジン・スイッチをONにし、ワイパー・スイッチをLOの位置にします。
3. 運転席側のワイパーがウィンドウ・ガラスの一番右端にきたとき、すばやくエンジン・スイッチをACCの位置にし、1.で取りはずしたカバーの穴からワイパー切り替え用リンク(下図)が見えることを確認します。



カバーの穴から切り替え用リンクが見えなければ2、3の操作を再度行ってください。

ちよつと一言

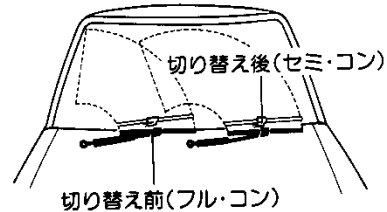
4. ①ドライバーを下図の位置に差し込み、スライダを右に動かしてガイドにはめ込みます。



ちよつと一言

ガイドにはめ込んだときカチッと音がしてロックされたことを確認してください。

5. エンジン・スイッチをONにし、ワイパーを4~5回作動させてください。
6. ワイパー・スイッチをOFFにし、ワイパー停止位置が上がっていることを確認します。



7. ワイパー・モーター横のカバーを取りつけます。



切り替え方法がわからないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

注意!

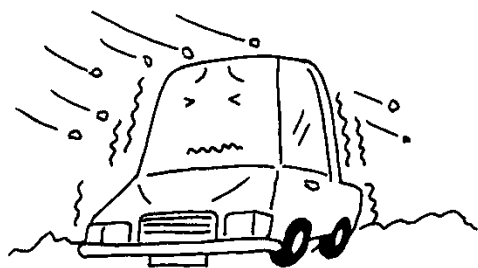
走行前の点検(運行前点検)

寒冷時には、次の項目を運行前点検のときに実施してください。

1. 車の下をのぞいて、足回りに付着した氷塊を部品に傷をつけないように注意して取り除いてください。
2. エンジン始動時にアクセル・ペダルの作動が円滑かどうか確認してください。
3. フロント・ウィンドウの氷雪を除去する際には、ワイパー・ゴムがガラスに凍結していないか確認してください。

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤ・チェーン

エンジンの冷えすぎを防ぐには



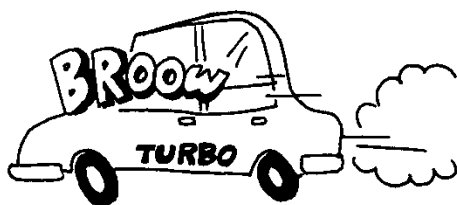
1. 気温に応じてラジエーター前面にカバーをつけるとエンジンを適温に保つのに効果があります。
2. 駐車するときは、ボンネット側を風下にしてください。

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤ・チェーン

ドアの凍結時の処置

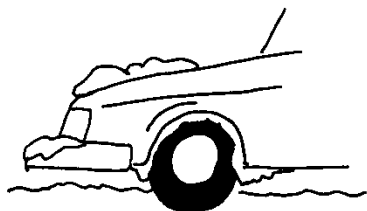
ドアが凍結した場合は無理に開けようとするとドア回りのゴムがはがれたり、き裂するおそれがありますので、湯をかけて氷を溶かしてください。なお、後で水分を十分ふき取ってください。また、トヨタ純正アイスガード（凍結防止剤）を使用すればゴムの凍結を防ぎ、ドアを楽に開けることができます。

ターボ車はエンジン始動直後に、エンジンの急激な空ふかし、または急加速をしないでください。



雪道走行時、フェンダー裏側に付着した雪が氷結し次第にたい積して、ハンドルのきれが悪くなる場合があります。

ときどき異常のないことを確認してください。



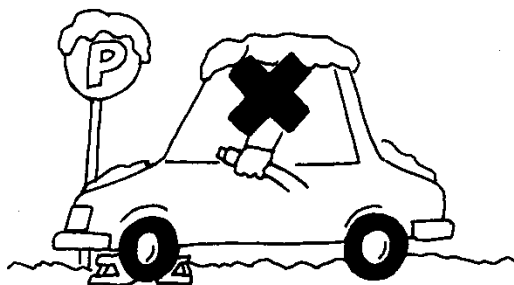
アクセル・ペダル凍結防止のため、靴に付着した雪を乗車時、よく落としてください。



凍結するおそれのある場合の駐車は…

寒冷時はパーキング（駐車）・ブレーキをかけておくとブレーキ装置が凍結するおそれがありますので、パーキング（駐車）・ブレーキはかけないでください。

1. チェンジ・レバーの位置をマニュアル（ギヤ式）・トランスミッション車はロー（1速）またはリバース（後退）、オートマチック・トランスミッション車は **P**（駐車）にします。
2. 車が絶対に動くことのないように輪止め（搭載工具に含まれています）をしてください。



寒冷地では雪道走行時あるいは駐車時にブレーキ装置に着氷し、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。

走行中は前後の車や道路状況に注意し、ときどき軽くブレーキ・ペダルを踏んでブレーキの効き具合を確認してください。

また、駐車後走行を開始する場合も、できるだけ早くブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪い場合は低速で走行しながら、効きが回復するまで数回ブレーキ・ペダルを軽く踏んでください。

ぬれた路面、氷雪路面、凍結路面ではスリップに注意




ひかえめな速度で走り、氷雪路面、凍結道路では、スノー・タイヤ、タイヤ・チェーンを装着してください。地域によっては、条例などで使用が義務づけられていますので、冬がくる前に準備しておいてください。

ディーゼル車の使用燃料について

軽油は外気温が -10°C 以下になると凍結し、燃料配管の詰まりなどの不具合原因となります。

寒冷地へ行くときは、現地へ着くまでに残量を半分(燃料計目盛りの $\frac{1}{2}$ 以下)にしておき、現地に着いたら下表にしたがってできるだけ早く寒冷地用燃料を補給してください。



注意! フェリーを利用して寒冷地へ行くときは、乗船前に燃料を半分にしておき、現地に着いたら寒冷地用燃料を補給してください。

使用限界温度	使用燃料		
	JIS 2号油 軽	JIS 3号油 軽	JIS 特3号油 軽
-10°C	○	/	/
* -14.5°C	○	○	/
-19°C	/	○	/
* -22°C	/	○	○
-25°C	/	/	○

*は、それぞれの燃料を同じ割合に混合した場合は示します。

タイヤ・チェーン



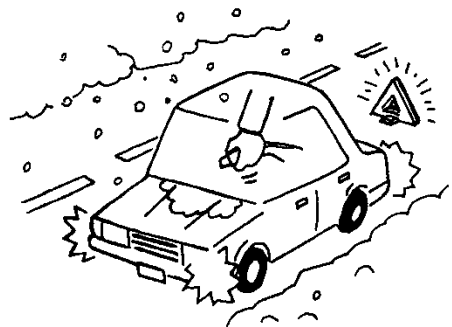
ちよつと言

1. タイヤ・チェーンは後2輪に取りつけます。
2. 作業をするとき車体端部などでケガをしないように注意してください。
3. タイヤ・チェーンはタイヤ・サイズにあったトヨタ純正品または下表指定サイズのものを使用してください。

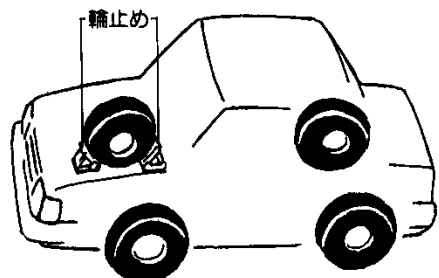
タイヤ・サイズ	指定サイズ(JIS表示)
175SR14 6.95-14-6PR 175R14-6PR	45191
6.45-14-6PR	45191A

■取り付け方

1. 交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に車を止めます。
2. 非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板を使用します。
3. パーキング(駐車)・ブレーキをかけます。



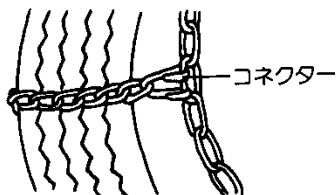
4. 工具、ジャッキを取り出します。
5. 左側チェーン取り付け時には右側前輪、右側チェーン取り付け時には左側前輪の前後に、輪止め(搭載工具に含まれています)をします。



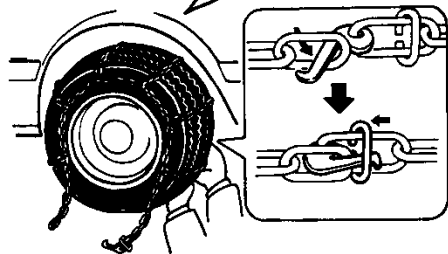
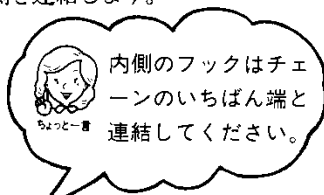
車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤ・チェーン

6. 後輪をジャッキ・アップします。□72ページの「ジャッキ」を参照してください。

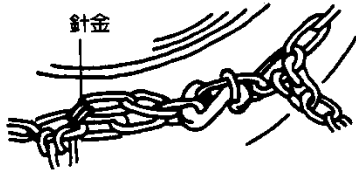
7. コネクターの折り曲げが外になるようにチェーンをかぶせます。



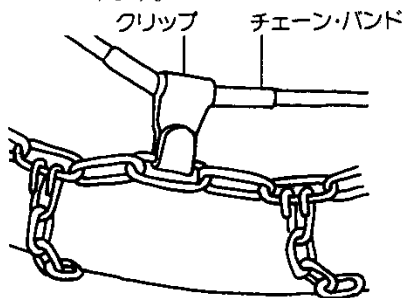
8. チェーンの両端をいっぱい引っ張って内側のフックを、次に外側を連結します。



9. 余ったチェーンは車体に当たるのを防止するため下図のように針金で結びます。



10. チェーン・バンドはクリップの爪を外向きにし、チェーンにかけます。



11. ジャッキをおろし、輪止めをはずします。

12. 2~3分走行後、チェーンのゆるみ、はずれなどが無いことを確認してください。



1. 走行中タイヤ・チェーンが切れたり、一部はずれたりした場合は、車体側に当たり悪影響をおよぼしますので、ただちに処置してください。
2. ホイール・キャップ付き車の場合、ホイール・キャップに傷がつくおそれがありますので、タイヤ・チェーンを装着する場合にはホイール・キャップをはずしてください。

■取りはずし方

1. チェーン・バンドをはずし、針金を取り、フックは内側から先にはずします。
2. 車を少し動かし、チェーンを取り出します。



1. タイヤ・チェーン購入時に一度装着して、長すぎる場合は、タイヤ・サイズにあうよう切ってください。
2. タイヤ・チェーンを装着した場合、雪道、凍結路は30km/h以下で走行してください。
3. 雪道、凍結路以外でのタイヤ・チェーンの装着はチェーンの寿命を短くしますので、できるだけさけてください。
4. 前輪にはタイヤ・チェーンを装着することはできません。

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤ・チェーン

エンジン・ヒーター

ターボ・ディーゼルのオートマチック・トランスミッション車の寒冷地仕様

■エンジン・ヒーターの働き

寒冷時電熱ヒーターにより冷却水を暖めて、始動性をよくする装置です。

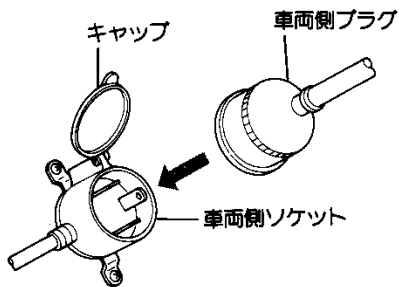
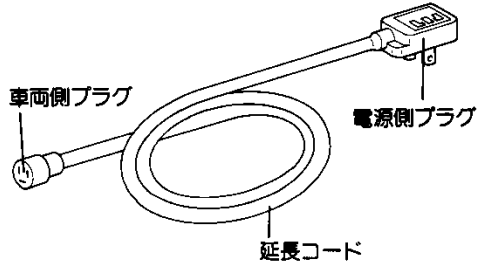
- 通電時間が長いほど、暖機運転時間の短縮およびヒーターの速効性に効果があります。
- 長時間通電しても過熱の心配はありません。



エンジン・ヒーターを使用する場合でも、エンジン・オイルは88ページの表にしたがって使いわけてください。

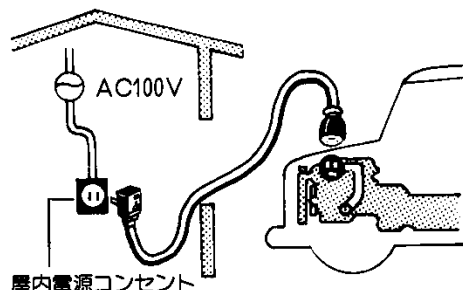
▶使用方法

1. ボンネットを開けて、冷却水の量が適正であることを確認します。
(点検方法は「整備手帳」を参照してください。)
2. 延長コードの車両側プラグを車両側のソケットに差し込み、ボンネットを軽く閉めます。



コードを損傷させないようにボンネットをロックするまで閉めないでください。延長コードは、トヨタ販売店でご購入ください。

3. 延長コードの電源側プラグをAC100Vコンセントに差し込みます。



エンジン・ヒーターの消費電力は500Wです。屋内電源コンセントの容量を確かめてから接続してください。

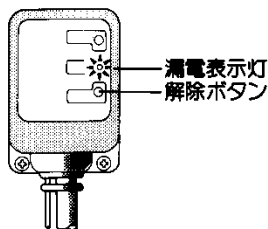
4. 通電時間は、気温や周囲の状態などにより異なりますが、およ次の時間を目安にご使用ください。

外気温	通電時間	
	マニュアル(ギア式)・トランスミッション車	オートマチック・トランスミッション車
-20℃	30分以上	60分以上
-25℃	60分以上	90分以上
-30℃	90分以上	120分以上



通電中に漏電表示灯が点灯した場合は、一度解除ボタンを押してください。解除ボタンを押しても消灯しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電源側プラグ



車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤ・チェーン

5. 通電が終わったら、電源側からコードを取りはずし、車両側ソケットのキャップを閉めます。



エンジンを始動する前に必ず延長コードを取りはずし、車両側ソケットのキャップを閉めてください。

ちょっと一言

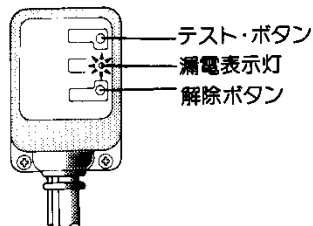
車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤ・チェーン

▶エンジン・ヒーターの点検

使用前と月1回以上、下記の手順で点検を行ってください。

1. 延長コードの電源側プラグを電源コンセントに差し込みます。
2. テスト・ボタンを押して、漏電表示灯が点灯することを確認します。

電源側プラグ



3. 解除ボタンを押して、漏電表示灯が消灯することを確認してから、コードをコンセントからはずします。



万一、テスト・ボタンを押しても正常に作動しない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

ちょっと一言